いのち・愛、そして絆を大切にするまちづくり

No.31　2019

ヒューマン上田

ヒューマン【Human】とは…

「人間の」とか「人間的」と訳され、一人ひとりの人権を大切にする明るい上田市であることを願い、名付けられました。

上田市人権啓発推進委員会　会長　橋爪一壽

みなさんは自分の人生を振り返った時、どのような俳句を思いおこされるでしょうか。

江戸時代を代表する俳諧師 小林一茶は、「わが宿は朝霧昼霧夜霧哉」「六十年踊る夜もなく過しけり」と自らの生き様を振り返っています。

一茶は想像を絶する数奇な人生を送りましたが、その中で2万余という膨大な数の俳句を詠んでいます。「雀の子そこのけそこのけ御馬が通る」「我と来て遊べや親のない雀」などは、一茶の代表的な作品ですが、慈愛に満ちた心温まる俳句となっており、現在にも通じる大切な気持ちが込められているように思います。

私たちが生きている21世紀は“人権の世紀”と言われていますが、身近な地域社会の中で尊厳が傷つけられたり、また、権利が踏みにじられたりと、『いのち』が軽視された事件が後を絶ちません。

平成29年12月に上田市が行った人権意識調査では、“今までに、自分の人権が侵害されたと思ったことがある”と答えた方は31.3%でした。差別されたり、人権を侵害されたりすると、一生涯心の傷として残るといわれていますが、人権は他人事だと受け止めている人が多く、人権についてあまり関心がないと回答する人も少なくありません。しかし、人権に無関心ではいられません。互いの人権を尊重することなしに、人が人らしく生活し幸福を享受することができるでしょうか。

一茶に「露の玉でき損ひはせざりけり」と詠った句があります。この句にも、一茶のあたたかな心持ちが表れているように思います。一茶は、自身の生き方や残した俳句を通して、私たちにいろいろなことを助言してくれているように感じています。さらに、これからは今まで以上に、人と人との結びつきが強く求められる社会になっていくのではないかと思います。今求められているのは、日々の生活の中で、相手の立場（自分だったらこうしてほしい）になって“想像力”を働かせ、思いやりの心を育んでいくことではないでしょうか。

一茶の俳句を通して各々が『人権』を考えるきっかけの一つにしていただければと思います。

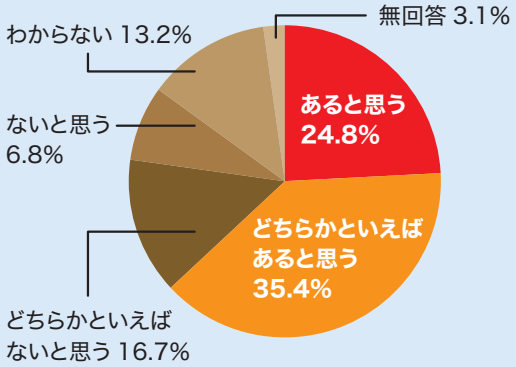
ポスターの部 最優秀作品　「えがおがいっぱい」塩田西小学校　四年　泉原（いずはら） 一斗（かずと）

特集 市民みんなが笑顔で暮らせるまち
～外国籍市民のみなさんと共に～

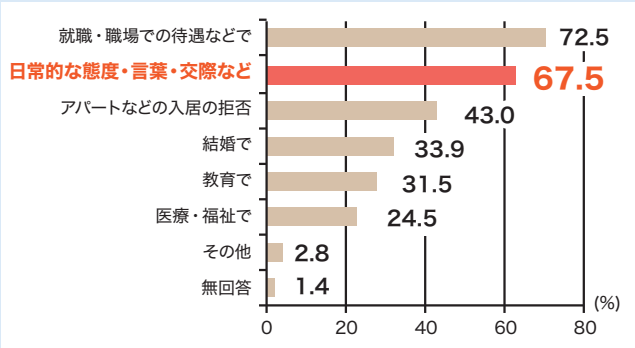
現在上田市には、**60か国**、**4,111人**の外国籍市民が生活しています。（平成31年1月1日現在 住民基本台帳）
上田市は、長野県の中でも、外国籍市民の住む割合の高い地域です。
そこで、今回の特集では、「外国籍市民といっしょに 暮らすためにどんなことが 大切か」を考えてみました。

平成29年に実施した市民意識調査の結果をみてみましょう

Q1. あなたは、日本に居住している外国人に対する差別・偏見があると思いますか？



Q2. 現在どのような面に外国人に対する差別・偏見があると思いますか？（複数回答）



人権に関する市民意識調査　平成29年12月　上田市・上田市教育委員会
【調査対象】住民基本台帳から無作為で抽出した20歳以上の男女2,000人
【回答数】834件（41.7%）

日常生活の中に、外国人に対する差別・偏見があると感じている方が多いようですね。

外国籍の皆さんに聞いてみました

特別扱いしないで、普通に話しかけてほしい。あいさつだけでなく、色々な話がしたい。
アメリカ 男性 在日5年

PTAや主人の仕事関係で仲間ができました。子どもに勉強を教えられないことに困っています。
インドネシア 女性 在日15年

治安のよい日本に来て経済的にも安定して嬉しいです。ゴミだし、バスの乗り方、習慣が違うので困りました。
ネパール 女性 在日18年

今は週に1回、日本語教室へ通っているだけなので、将来のために、学校できちんと日本語学習をしたいです。
ブラジル 女性 16歳

日本語は読めるが、大変時間がかかるので、重要な公報などを読むのに不便を感じている。
オランダ 男性 在日26年

田中 琳さんの話

・中国生まれ。18年前に来日。上田市に住んでいる2児の母です。
・上田市多文化共生推進協会（AMU）理事
・外国籍のみなさんが、孤立することなく地域社会とつながりをもって生活できるよう積極的に活動しています。

私は、このまえ仕事で電話を受けたとき、私が問い合わせの件で十分な説明をしたあと、「あなたは日本人じゃないよね、ほかの人に代わって。」と言われて、すごくショックでした。日本人の中には、外国人に対して「良いイメージ」をもっていない人もいることを知りました。

違いがあるのは、当たり前です。誤解の原因って必ずあるので、その原因をたしかめて、「日本では、こうなんだよ」と言ってもらえば、解決すると思います。「言葉の壁」より「心の壁」がお互いの理解を難しくしているように思います。

上田に住む外国籍の皆さんに伝えたいこと
「あいさつ ＝ なかよし」
「おもいきって話そう」

市民の皆さんにお願い
「あいさつをしよう」「ルールをおしえて」「ぜひ かかわって」

地域の取り組み

冬休みの一日、千曲町の集会室に外国籍児童生徒が集まり冬休みの宿題をしたり、ボランティアで指導しているレイナ・ユリコさんから日本語を教えてもらったりしているところです。

ここでは、地域の方も外国籍の子どもたちの学習をみてくれています。宿題だけではなく日本語や日本の習慣、ルールについても学びます。また、仲間同士の交流の場にもなっていて、定期的にこのような会を行っています。

千曲町の自治会ではそんな活動を理解し、集会所を貸したり、一緒に活動に参加したり、協力しながら外国籍の皆さんとの交流を図っています。

上田市の取り組み

上田市多文化共生推進協会（AMU）

外国籍市民を支援し、多文化共生社会の実現にむけて活動しています。

多文化交流促進、自立と社会参画支援、異文化理解推進、外国籍児童・生徒の学習支援、日本語学習支援等に取り組んでいます。

うえだ多文化交流フェスタ

外国籍市民と学ぶ防災講座

中学校での学習支援

問い合わせ先

●上田市多文化共生推進協会（AMU）
（上田市ふれあい福祉センター内）
TEL：0268-25-2631
FAX：0268-25-2631
E-mail：ueda_tabunka@po15.ueda.ne.jp

●上田市市民課　外国籍・多文化共生担当
（上田市役所内）
TEL：0268-75-2245
FAX：0268-22-6023
E-mail：simin@city.ueda.nagano.jp

外国籍市民との接し方　3つのヒント

その1　あいさつしよう！　顔を合わせたら　日本語で

その2　笑顔で　話しかけよう！　思い切って　もうひとこと

その3　くりかえし　話しかけよう！　なんどでも

きっと笑顔で暮らせる地域社会になるのではないでしょうか。

いのち・愛、そして絆を大切にするまちづくり

上田市人権啓発推進委員会 平成30年度の活動紹介

上田市人権啓発推進委員会は、各団体の代表や自主的に入会した120余名の市民で構成されています。当委員会では、お互いの人権を尊重し、あらゆる差別をなくそうと学習や市民への啓発活動を行っています。より多くの皆様に当委員会を知って参加していただきたく、この1年間の主な活動をご紹介します。

委員視察研修会

平成30年7月10日

今年は岐阜県八百津町の「杉原千畝記念館」を訪れました。杉原千畝は日本の外交官です。第二次世界大戦の最中、北欧リトアニアの首都マナウス日本領事館に派遣されていました。

１９４０年、ポーランドに住んでいた人々は、西からドイツ、東からソ連の武力侵攻を受け、リトアニアに逃れてきていました。その中には多数のユダヤ人も含まれていました。難民となった彼らには、もうどこにも行くところがありません。残されているのは、日本を経由して、他の国に逃れることです。

千畝は何度も外務省へビザの発給許可を願い出ましたが、本省からの訓令は、いつも「日本から次の国に行くのなら、その国への入国許可証がない限りビザを出してはいけない」というものでした。領事館の周囲を埋め尽くす難民は増えるばかりです。この時の気持ちを千畝は後年次のように述べています。「私は何を隠そう、一晩中考え続けた。苦慮・煩悶の挙句、私はついに人道、博愛精神第一という結論を得た。そして私は何も恐れることなくビザ発給を決意した。」こうして決心した千畝は、一か月余りの間ビザを書き続け、結果的に6,000人もの人々の命を救ったのです。国からの命令に反する行いは、国内では評価されませんでしたが、イスラエル政府は1985年（昭和60年）千畝を「諸国民の中の正義の人」として表彰しました。記念館の館長さんからは、千畝の他にも多くの人たちの協力があったことを教えていただきました。家族や自らの危険を顧みず、多くの人の命を救った千畝のことを多くの人に知ってほしいと思いました。そして、人権軽視の異常な国際情勢の中でも、人道に生きた杉原千畝を誇りに感じました。

▲杉原千畝記念館での研修

人権を考える市民のつどい

平成30年10月3日

講師は、政治学者の姜尚中さんでした。政治や政治思想史を専門とし、テレビの討論番組やトーク番組・新聞・雑誌などで幅広く活躍されています。

講演は「共生・共苦・共楽の社会　～私の体験から～」と題して、ご自身の生まれ育った故郷熊本での体験や、沖縄から国後まで日本の様々な場所を歩かれての取材をもとに、日本の社会の「人権」のあり方についてお話いただきました。

最初に、「人権」とは「Human Rights（ヒューマンライツ）」であり、本来の意味は「人間として正しいこと」であるが、その翻訳には「正しい」が抜けてしまっているということ等、「人権」という言葉から、何かが抜け落ちているのではないかとの問題提起から始まりました。

人権がめざす姿は「自分が自分であることを認め、社会でもお互いがお互いを認めること。」として、「同和問題」「先住民族のアイヌの問題」「外国人の問題」「男と女の問題からジェンダー」、最近の「ＬＧＢＴ」等について語られました。

▲姜尚中さん講演会

これらのお話を通して、過去の人権問題はいまだ続いており、さらに広がり、深くなっているという現実はあるが、今はそれを上回る程の共に生きようとする力がある。これからは、過去の負の歴史を語り継いでいきながら、「共生・共苦・共楽」の精神で生きていってほしいとまとめられました。

終始温和な語り口で、緻密な取材をもとに人権に関する課題に対して鋭く切り込んだ講演に、つい時間が過ぎるのを忘れるほどでした。

人権啓発担当者研修会
平成30年11月10日

「思い込みに気づく…」をテーマに市内社会教育関係団体等の人権担当者、約170名が２講座に分かれて話し合いをしました。

第１講座の「同和問題基礎講座」の参加者からは、「自分が学んできた同和問題と違い、見方が変わった」との感想がありました。

第２講座の「ＤＶＤを視聴して人権問題を考える」の参加者からは、「外国人は近寄りがたいというイメージがあるが、接してみないとわからない」「障がいを持った人から声をかけられたら手をかすことが大切」などの意見が出ました。「思い込みから思いやり、そして思いあうこと」との最後のまとめの言葉に、助けられたり、助けたりすることの大切さを再確認した研修会でした。

▲グループワークの様子

第70回人権週間 ～ 街頭啓発 ～
平成30年12月4日～10日

人権週間も７０回の節目を迎えました。今年はザ・ビッグしおだ野店を新たな会場として加え、市内４ヶ所で人権擁護委員の皆さんとともに「啓発チラシ、啓発物品」の配布をしました。来店されるお客様も街頭啓発に関心をもたれたようです。

「人権」という言葉から、一人一人どんな印象を受けたのでしょうか。人権は難しいものではなく、誰でも心で理解し、感じとれるものだと思います。私たちが人間らしく生きる権利であり、身近で大切なものです。

この街頭啓発が、人権についての理解を一層深めるきっかけとなれば幸いです。

▲上田駅前での啓発活動

人権作品審査
平成30年12月14日～平成31年1月9日

人権作品の第一次審査が12月14日(金)に、第二次審査が1月9日(水)に上田市中央公民館で行われました。応募していただいた作品を審査員全員で１点、１点丁寧に目を通し審査されました。

今年は小中学生・高校生の応募のほか、社会人の皆さんからの応募が昨年に比べて50作品も増えました。

審査員からは「この作品からは作者の心の内側が伝わってきますね」などの感想が出されました。充実した作品をたくさん寄せていただき、人権への関心の高まりを感じることのできる審査会でした。

お寄せいただいた作品は上田市の人権啓発活動に使わせていただきます。

▲この標語素敵だよね。ちょっと読んでみて。

うえだ人権フェスティバル
平成31年2月23日～24日

「いのち・愛、そして絆」をテーマに第31回人権フェスティバルが新築の西部公民館において開催されました。

会場には人権啓発推進委員が作成したさまざまな人権に関する資料と、小中高生や一般の方の人権作品が展示されました。

23日には最優秀作品の表彰式及び作品発表があり、一生懸命に取り組んでいる子どもたちの姿に感動しました。

24日には西小学校の生徒による金管演奏、第三中学校二年生による東日本大震災復興支援活動「ひまわりプロジェクト」の発表。午後は落語家の春風亭鹿の子（しゅんぷうていかこ）さんの講演。落語の世界、簡単にできる健康法、「笑顔と感謝の心」が大事だと面白おかしく、そしてわかりやすくお話しいただきました。子どもも大人もそろって参加の「うえだ人権フェスティバル」でした。

▲人権フェスティバル　講演会の様子

平成30年度 最優秀人権啓発作品

上田市人権啓発推進委員会では、上田市教育委員会とともに、毎年多くの方に人権尊重への理解を深めていただくために人権啓発作品（作文・詩・標語・ポスター）を募集しています。

今年度も小中学生をはじめたくさんの方に、応募していただきました。その中から最優秀作品に選ばれた作品の一部を紹介します。

▲うえだ人権フェスティバルで表彰式が行われました。（平成31年2月23日）

作文の部

心の耳で聴く

傍陽小学校　六年　岩元（いわもと）　紅璃（あかり）

「聴覚障がい」この言葉を聞いた時、私の心のどこかで不安な気持ちが少しあった。

授業で、聴覚障がいの篠原さんと北原さんと交流をした。授業が始まる前、「どんな人なんだろう。」「耳が聞こえないのにどうやって交流するのだろう。」と、少し不安な気持ちで待っていた。教室のドアが、「ガラッ」と開いて、篠原さん達がいらっしゃった。手話が得意な宮下先生と一緒に手話で会話をしていた。教室はとても静かで物音もしなかった。篠原さん達のやりとりが終わり、授業が始まった。

まず、篠原さんの自己紹介が始まった。手話をやりながらも、一生けん命口でしゃべっていた。「私は四才の時に耳が聞こえなくなりました。」と。私はその時、「そんなに小さい時からだったんだ。」と、少しおどろきを感じた。その後は、みんなで動物や果物を手話で表わしてみた。スイカとメロンのちがいやくまと犬のちがいなど、自分達で手話を予想しながら楽しく交流したのだ。篠原さんはすごく明るくて一緒にいると、笑うことが多かった。「聴覚障がい」この言葉はもう私の頭の中にはなかった。そうして楽しく交流していく内に私達も手話に興味をもち、覚えていった。

最後には、伝言ゲームをした。私達の班は「スポーツ、剣道、得意」という文を篠原さんに伝言した。慣れない手話でまちがえながらも篠原さんに伝えられた。私はその時、ふと心の中で思った。「耳が聞こえなくても、こうやって表情や手話で言葉を伝えられると、心が通じ合ったみたいにうれしい。」と。

この一時間、私には「心の耳」が、あった。人生初めて「聴覚障がい」の方と交流して、最初は、少し不安だったし、耳が聞こえる人にとって遠い存在だと思っていたけれどそんな事は全くなかった。もちろんふつうの会話はできないと思う人もいるかもしれないけれど、「耳の代わりに心で通じ合う。」そんな体験ができて、すごくうれしく思った。授業が終わりに近づいた。「もっと交流したかった。」と思った。最初のように、「耳が聞こえないから。」と思うのはやめることにした。篠原さん達のように耳が聞こえない人にとってそのように思われるのはいやだと思うからだ。なぜなら耳が聞こえなくても人と人が相手の気持ちや様子を理解すれば、どんな時だって通じ合えるからだ。私はこのことを絶対に忘れないようにしたい。今回の体験はきっとこれからの生活で生かせることがあると思う。一つの障がいをかかえながらも一生けん命生きている篠原さん達のことを思い出して過ごしたい。また、手話などにもっと興味を持ちたい。

「聴覚障がい」この言葉を聞いた時、今の私には「心のつながりの大切さ」という言葉しかない。

作文の部　最優秀賞　受賞者

ひつじさんのお世話
塩川小学校　二年　廣川（ひろかわ）　雄大（ゆうだい）

「サイアク！」を読んで思ったこと
長小学校　三年　大久保（おおくぼ）　理沙子（りさこ）

私の心
中塩田小学校　四年　保屋野（ほやの）　咲（さき）

心の耳で聴く
傍陽小学校　六年　岩元（いわもと）　紅璃（あかり）

読書から人種差別を考える
菅平中学校　一年　今井（いまい）　陽萌（ひめ）

差別
第四中学校　二年　岩本（いわもと）　優芽（ゆめ）

同和問題から学んだこと
依田窪南部中学校　三年　両角（もろずみ）　春奈（はるな）

「いじめ」についての講演を聞いて
丸子修学館高等学校　一年　武重（たけしげ）　功太郎（こうたろう）

詩の部

わたしのなかよしの友だち

丸子北小学校　二年　髙木（たかぎ）　さくら

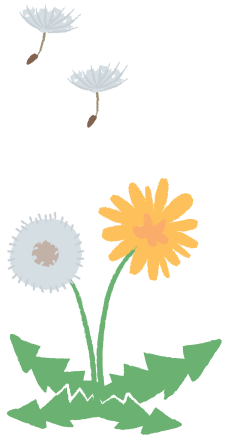
いつもはなかよしの友だちと
けんかをしちゃった。

わたしと友だち
どっちの方がわるいのかな。

わたしは、友だちに
わるいことをしていないと思っていても
しているかも知れないし
ほんとうは、わたしは
わるくないかも知れないし、
どっちなのかわからない。

わたしの心の中は、
いやな気もちでいっぱいだけど
けんかした友だちも、
わたしと同じ気もちなのかな。

やっぱり、あした会ったら
すぐあやまろうかな。



詩の部　最優秀賞　受賞者

わたしのなかよしの友だち	丸子北小学校　二年	髙木（たかぎ）さくら
「いいよ。」って言うから	丸子北小学校　三年	池田（いけだ）　柚希（ゆずき）
わたしの弟	塩田西小学校　四年	崎原（さきはら）　萌衣（めい）
五年四組	神科小学校　五年	長谷川（はせがわ）陽大（あきひろ）
キックベース	塩田西小学校　六年	市村（いちむら）　綾大（りょうた）
友達とは	第五中学校　二年	下島（しもじま）　佳純（かすみ）

標語の部

なかないで　なにかあったの　どうしたの
川辺小学校　一年　原（はら）　凜桜奈（りおな）

だいじょうぶ　みんなしっぱい　あるからね
清明小学校　二年　荻原（おぎわら）　由衣（ゆい）

「あそぼうよ」　みんなでなかよく　わいわいわい
浦里小学校　三年　坂口（さかぐち）　陽音（はると）

大丈夫？その一言で　明日がかわる
清明小学校　四年　伊藤（いとう）　由杏（ゆあ）

いじめの連鎖　断ち切れるのは　あなたの勇気
中塩田小学校　五年　小出（こいで）　咲花（えみか）

悪口は　かるく言っても　おもいこと
菅平小学校　六年　縵沢（ぬたざわ）　仁（じん）

いじめはね　誰かの勇気が　助け舟
第六中学校　一年　西澤（にしざわ）　叶理（かなり）

消火せよ　君のまわりの　いじめの火
第五中学校　二年　宮澤（みやざわ）　陽菜（ひな）

気づこうよ　聞こえぬさけび　見えぬ傷
第五中学校　三年　富澤（とみざわ）　大翔（ひろと）

やめましょう　見ない　知らない　しらんぷり
社会福祉法人　敬老園　望月（もちづき）　さちほ

ポスターの部

ひとつもかけてはいけない言葉
東小学校 六年　金子 來奈（かねこ らな）

にこにこ みんな なかよし
傍陽小学校 一学年十四名のみなさん

なかよしの花をさかせよう
城下小学校 二年　上原 梯虎（うえはら てとら）

明日に希望を
第五中学校 一年　須藤 虹（すどう なな）

いじめやめて！
心のピースはずれるまえに
塩田中学校 三年　大田 唯（おおた ゆい）

ともだち大切に
川辺小学校 三年　竹花 颯良（たけはな そら）

心の雨を晴らそう
塩田中学校 三年　大井 美音（おおい みおん）

自分の色あなたの色
みんなで架けよう思いやりの橋
丸子北小学校 五年　岡本 英桜（おかもと えいさく）

表紙について

「えがおがいっぱい」

平成30年度の人権啓発ポスターの部において最優秀作品に選ばれた作品です。
上田市人権啓発推進委員会では、市民の皆様お一人おひとりの個性が輝き、このポスターのような笑顔があふれる住みやすい上田市になるよう皆様といっしょに人権啓発に取り組んでいきます。

上田市人権啓発推進委員会への
ご意見、入会申込み（年会費500円）は事務局まで。

《事務局》上田市教育委員会 生涯学習・文化財課
TEL.23－5197

［編集・発行］上田市人権啓発推進委員会　上田市天神一丁目8番1号 上田駅前ビルパレオ5階　平成31年3月16日発行